

〔下文『醒めて踊れ』文で、右項の『日本および日本人』文を理解する〕

*「近代化(實在物:D1)の必要條件は技術や社會制度(潜在的言葉:F)など、所謂『ハードウェア』のメカナイゼーション(機械化)、システムライゼーション(組織化)、コンフォーマライゼーション(劃一化)、ラショナルライゼーション(合理化)等々の所謂近代化(潜在的言葉:F)に對處する精神の政治學(Eの至大化)の確立、即ち所謂『ソフトウェア』の適應能力(Eの至大化・附合ひ方・So called)にある」(全七P393上)。

〔ハードウェア:D1
近代化〕

* 場(C')との關係、
即ち右線「近代化D1
適應正常」の反對
(D1の至小化)が、
似而非近代性=近代
化適應異常

場(C' 西歐近代)

〔ソフトウェア:E〕

* 対象(F・物・言葉)との附合ひ方、
即ち左線「so
called」の反對が
「not so called=Eの
至小化」。

〔ハードウェア:
F〕

近代化(D1)の
別名・・・近代戰・
近代的戰爭・國
家主義・個人主
義・絶對者・等

〔『日本および日本人』(全三P192):つまり『醒めて踊れ』の下地を此處に發見できる〕

*「近代戰(F)に馴れない(not so called=Eの至小化)人間(即ち「和を原理とする」=異質なso called手段を持つ人間)が近代的戰爭(F)に手を出した結果が、殘虐不法な戰爭を招來し(似而非近代性=近代化適應異常)、國家主義(F)に馴れない(not so called=Eの至小化)國家が國家主義をまなんで超國家主義(似而非近代性=近代化適應異常)になつた。同様に、權利義務の契約(Eの至大化)にもとづく個人主義(F)に馴れない(not so called=Eの至小化)人間が、その制度(F)や法律(F)を移入(Eの至小化)すれば、それはたんなる利己主義を助長する(似而非近代性=近代化適應異常)にしか役だたぬのです」。と同様に絶對者でもないもの(天皇)が、無意識のうちに、西洋流の神(F)に對抗し、それに牽制されて(not so called=Eの至小化)超絶的な風貌(似而非近代性=近代化適應異常)を呈してくる(P194)」(即ち基督教「絶對神」への適應異常)。